

# 旧赤星鉄馬邸案内

令和1年11月24日 銀座栄光法律事務所 弁護士 竹内雄一

## 第1. はじめに

旧赤星鉄馬邸は、アントニン・レーモンド（1888～1976年）が設計した昭和初期の近代建築です。

近代建築の巨匠ル・コルビュジエ（1887～1965年）は、連窓による採光により室内環境を明るくし、外の景色との一体感をもたらすとともに、外観上も、連窓が連なる縦横の直線を強調することで、シンプルな機能美をもたらしました。アントニン・レーモンドは、近代建築の3大建築家の1人フランク・ロイド・ライト（1867～1959年）（以下「ライト」といいます。）に学び、ル・コルビュジエ同様の近代建築の直線の機能美を備えるとともに、さらに、独自の工夫を凝らし、曲線美による柔らかな生活空間を演出しました。そして、ノエミ・レーモンド夫人がインテリアをコーディネートしました。現在、ル・コルビュジエやフランク・ロイド・ライトの建築のいくつかは世界遺産に登録されています。

レーモンド夫妻は日本に在住した愛日家でした。日本建築は、造形の多様性・一体性を組み合わせながら、家の柱に自然の木を用い、漆喰が湿気を吸い取る等、建物自体で、自然を感じられるようになっています。旧赤星鉄馬邸にも、和式のものとして、玄関庭、お倉の木組みや作り付けの木製の家具、収納扉などが残っています。

レーモンド夫妻ならではの洋風和風を折衷した家族のための心豊かな生活空間を存分にお楽しみください。

## 第2. モダニズム建築の先駆者たち

アントニン・レーモンドは、ル・コルビュジエと同世代です。二人とも、モダニズム建築の先駆者ですが、コンクリート打ち放しはレーモンドが1923年に霊南坂の自邸にて日本で初めて行い、ル・コルビュジエはその6年後のスイス学生会館で初めて行いました。

ル・コルビュジエは、ヨーロッパの影響でドア文化であり、アントニン・レーモンドは、日本の家屋の特徴である引き戸文化による、解放されたデザインです。これらは、気候の違いと、防御に対する文化の違いが影響したものと存じます。日本は、木造でオープンな建築、ヨーロッパは防御力のために石造で開口部が小さいという特徴があります。

また、アントニン・レーモンドは、ライトの弟子でありながら、日本の文化をいち早く取り入れ、日本の農家の建物より多大な影響を受け、ライト・デザインより脱却し、独自のレーモンドスタイルを確立致しました。

守破離という言葉が古くからあります。アントニン・レーモンドは、ライトの弟子であり、その様式を、まず忠実に守りました。書斎では十字架のイエス・キリストを掲げ、普遍的な愛を追及しました。当時のアールヌーボー思想の影響も受け、自然そのものを師としました。このようにして、アントニン・レーモンドがその感性に合う独自の様式を探求した結果、柔らかな生活空間のための曲線美、木や漆喰の自然な呼吸そのものに行き当たり、これらを生活空間に取り込み、邸宅内外が一体となるような至福の生活空間を実現しました。

赤星鉄馬の設立した日本初の学術団体「啓明会」は、ごく最近平成22年まで学術を通じて世界の人々を照らしました。赤星鉄馬の没後も60年続きました。

1956年～所有者となったナミュール・ノートルダム修道女会は、ノートルダム清心として今なお岡山や原爆被災地の広島等で教育の慈雨を降らせ、人々の心を洗い続けています。さらにアフリカでも教育事業に熱心に取り組み、その活動は、地球規模で、とどまるどころを知りません。

公共物とは、地域性・宗教性・歴史性・文化性など様々な価値があります。しかし、その真の価値は、これらを高く超えています。その真の価値は、公共物を見て触れるすべての方々に対し、私利を離れ、公共的な存在となるように導く鏡であることにあります。

今後も旧赤星鉄馬邸が、平和と緑の都市－武蔵野市の中心に在り続ける意義を感じざるを得ません。

### 第3. 赤星鉄馬

赤星鉄馬のご尊父赤星弥之助は明治期の実業家であり、51歳の誕生日を迎える1週間前に夭折したことに伴い、長男赤星鉄馬は、23歳になる直前にご尊父を相続し、留学先のアメリカから帰国してご尊父の葬儀を取り仕切りました。赤星鉄馬は、大正6年春、34歳の頃、ご尊父から相続した収集品を売却し、その5分の1、現在価値でいえば20億円を提供して、日本初の本格的学術財団「啓明会」を立ち上げました。徹底して名誉心を捨て去り、赤星の名前も冠せず、その運営にも口を出さず、自主運営に任せており、柳田國男を始め数多くの才人がここから巣立ちました。赤星鉄馬は戦争の波にもまれながら、私財をなげうって、学術振興の陰徳を残しました。

### 第4. ナミュール・ノートルダム修道女会

リメンバー・パールハーバーの掛け声で始まった日米戦争で焦土に化した東京広島長崎他の惨状に心を痛め、戦後、ナミュール・ノートルダム修道女会のアメリカ・ボストン管区では、キャンディー募金と呼びならわされる募金活動が開始されました。1つキャンディーを食べるのを我慢して、日本のために、募金しようという掛け声により、合計55万ドルもの募金が集まりました。

1950年から、岡山広島等に、教育施設ノートルダム清心が建立し、1956年には、その修練院として、旧赤星鉄馬邸を、ナミュール・ノートルダム修道女会が所有することになり、東京修道院と名づけられました。東京修道院初代院長渡辺和子は、読書をこよなく愛した教養人、陸軍教育総監だった父渡辺錠太郎を、二・二六事件で目の前で惨殺されるという悲惨な出来事を幼い頃、経験しました。二・二六事件で標的とされ重傷を負った侍従長鈴木貫太郎が、昭和天皇の御意を得て、内閣を組閣し、戦争を終結させました。渡辺和子シスターは、この東京修道院で、憎しみを愛に変えるという不可能とも思えることを実践するように生涯努力されました。

若いシスターたちがここ東京修道院で上智大学に通い、修練を積み、その後岡山広島等のノートルダム清心で教鞭につきました。2010-2011年に最後の修練者が卒業しましたが、その後も、ナミュール・ノートルダム修道女会は、地域住民とともに与るミサをあげ、地域住民に対し英語や裁縫等を教え、カトリック吉祥寺協会では信徒育成講座を担当し、平和のための書籍を複数、翻訳し出版し、季節毎にクリスマス会などの集会を開催し、地域住民のための結婚式やお葬式なども挙げ、長年に渡り、教育活動及び地域社会への貢献を続けました。

### 第5. 外壁

壁は打ち放しのコンクリートで、高さは1メートルを超えますが、厚さは約15センチ幅に抑えており、スタイリッシュな機能美をそこはかとなく醸し出しています。コンクリート造の壁には鉄筋が通っており(鉄筋コンクリート造=RC造)、それがこの造形を保ち続けられる秘訣です。

## 第6. 門柱

等間隔の四角形の中に、べたの四角形と、多くの円形の穴の開いた四角形と、空洞の四角形をバランスよく配置し、それ自体で造形の多様性・美しさを見せると同時に、この模様は、玄関・外観の模様と連続しています。模様の連続性・シンメトリックは、建物・庭のみならず、門柱に至るまですべてがレーモンド夫妻の思想に基づく一体建築であることを示しています。模様の一体性は、迎え入れる客人をおもてなしする気持ちの表れであり、滞在時の独特の居心地の良さに結びついていきます。

## 第7. 建物全体の構造—御御堂、本館、離れ

アントニン・レーモンドが設計したのは、本館であり、御御堂（おみどう）や離れの建物は、1956年に本館がナミュール・ノートルダム修道女会の所有になってからの増設部分です。

## 第8. 御御堂の建物

### 1. 御御堂

近所の方々が参加できるミサやクリスマス会がここで随時行われています。また、コンサート会場としても活用することができます。岡山広島などに広がるノートルダム清心卒業生たちの同窓会の場所ともなっています。

### 2. 御御堂1階の客室（司祭部屋）

ミサの司式をされる司祭がお泊りになるために、ゆったりとしたベッド、机等が、広い部屋に配置されています。その奥の部屋には、風呂・トイレ・洗面台の一式が揃っています。

### 3. 御御堂2階

4部屋、集会室、風呂、洗面台、台所、トイレと物置などからなります。

#### (1) 部屋

部屋の作りは皆同じであり、十字架のイエス・キリスト、机、いす、ベッド、そして天井に広がる大きな収納です。シスターたちや、ノートルダム清心の卒業生、黙想会の参加者が、ここで静かに神に祈りを捧げていました。

#### (2) 集会場

シスターたちの学習のためにも使用された他、茶話ができ、同窓会としても活用していました。小さな月の形をした、マリア様と幼いイエス様がお顔を見合う木彫りは、全世界的な教育に情熱を捧げたナミュール・ノートルダム修道女会創始者聖ジュリー・ピリアートの愛に根差した飾らない信仰と人々の必要を満たす活動を想起させます。

### 4. 御御堂から本館に向かう廊下の床の取り外し

御御堂から本館に向かう1階の廊下の床の一部が取り外しできるようになっています。取り外すと、その下に深い空洞が広がっています。この空洞はガスボイラー室に繋がっています。ガスボイラーは、昔は石炭ボイラーでした。当時は、地下の石炭ボイラー室に近い1階の床の一部を取り外し、取り外し

た後のその穴から、ボイラー室に石炭を落とせるようにしていました。

## 第9. 旧赤星鉄馬邸（以下「本館」）

### 1. 鉄筋コンクリート造り

外壁のみならず、本館も鉄筋コンクリート造りです。アントニン・レーモンドは愛日家であり、日本が震災大国であることも理解して、鉄筋コンクリート造りの頑丈な建物を建てていました。

その一例に、銀座教文館があります。百周年を迎えるにあたって、アントニン・レーモンドが鉄筋コンクリート造りで建てた銀座教文館も、銀座の中心部でビル倒壊があつては問題なので、耐震基準を満たすか否か、厳密に検査されました。その結果、耐震基準を完全に満たしていたので、補強・改修の必要がまったくありませんでした。

旧赤星鉄馬邸の鉄筋コンクリート造りの外壁や本館は、東日本大震災でもビクともしませんでした。

### 2. 玄関・外観

近代建築においては、建築技術の発達により、採光しながらの優美な造形が可能になりました。縦横の線の交錯に、ふくらみのある曲線美を組み合わせています。この玄関・外観の造形自体が、近代建築がフランク・ロイド・ライトを経て、アントニン・レーモンドに受け継がれ、アントニン・レーモンドが近代建築に生活のやすさのための曲線美を独創的に加味したという歴史の凝縮版です。

玄関の上には長いひさしが雨よけの役を果たしています。見上げると、そこに無数の円形があります。門柱にあった多くの円形の穴の開いた四角形とのシンメトリーによる一体感を味わえるとともに、重い雰囲気になり勝ちの長いコンクリートのひさしに、天上の軽やかさを加え、暗くなりがちな造形に天の光を取り入れ、機能美を加えています。

### 3. 玄関・内観

玄関から入ってすぐの場所は、諸々のものが、縦横の線の組み合わせによる無数の四角形で構成されています。傘立て、玄関の門の窓枠、玄関の明り取りのための窓枠など、およそ目に入る限りのものが、すべて縦横の線で構成されています。この縦横の組み合わせは、主人が客人を迎える際の格式を示しています。そのような格式美に曲線美が遠慮がちながら加味されます。すなわち、玄関入って正面、現在は小さな鏡とマリア像のあるところは、少し外側に膨らんで、曲線美により生活空間としての柔らかさを演出しています。この曲線美による若干の柔らかさが、玄関入ってすぐ左手にある螺旋階段の大胆な曲線美に繋がっていきます。その様子は、あたかも交響曲のモチーフの主題が、繰り返されながら、だんだんと大きくなり、いよいよフォルティッシモを迎えるかのようです。

### 4. 螺旋階段

玄関から入ってすぐの螺旋階段は、昇り降りしやすくするために、1段1段の奥行きが幅広にできており、また、横幅も幅広で、重厚感を示しています。同時に、縦長に構成された複数の窓の高くから差し込む日差しにより、客人の視線を自然に天井に繋がる螺旋階段に誘導します。この螺旋階段は、軽やかに曲線を描きながら、上っていきます。螺旋階段空間は、奥が膨らんで十分な空間が確保されています。螺旋階段の波を思わせる流線形の柔らかさが見所です。

大広間の前にある本館の中階段も同時に見ることができ、左右に広がっていく優雅な印象を受けます。

## 5. 玄関庭の躰・灯籠

大広間の先に広がる洋風の庭と対比するように、玄関庭には純和風の躰（つくばい）・灯籠があります。玄関庭奥の壁は、複数の四角形の穴が規則的に開いており、明り取りとなるとともに、その奥にある運転手の待機室や執事部屋として使われた部屋から、複数の四角形の穴を通して、大広間の様子を見通せるようになっていきます。執事や運転手は、部屋で大広間の様子を眺めながら、頃合いを見て、車を正面玄関に回すなどの対応をしたのでした。真南に面した連なったガラス戸越しに差し込む洋風の庭の燦燦たる光に対し、玄関庭壁は北側に面し、飛ぶ鳥などの影を大きく映し出します。光と影が交差する歴史の中にあって、精神の自由を保ち続けた旧赤星鉄馬邸の主たちの往年が偲ばれます。

## 6. 執事室・運転手待機室

旧赤星鉄馬邸は現在の成蹊学園も含む広大な敷地であり、南側を岩崎弥太郎に売却した後も、北側は現在の五日市街道まで広がっていました。運転手は、当時、正面玄関で、主人を降ろした後、北側の駐車場に止め、大きな木を回るようにして、車を出し入れしていました。そして、勝手口から、執事室・運転手待機室として使われた部屋で、休んでいました。その後、1970年代に北側の五日市街道に面する駐車場などの土地が売却されました。現在、大きな木の周りを石が囲っていますが、これは往年の車寄せの名残です。

北側に面しているので、窓を270度にまで広げ、採光するとともに、窓下には、ノエミ夫人による可愛い収納棚が並んでいます。この窓から、執事は門柱から入る人を見ることができますし、中庭の壁に空けられた四角い穴を通して大広間の様子を見て、主人や客人の様子、送迎の頃合いなどを図ることができました。

## 7. 大広間

大広間は、近代建築の特徴である連なったガラス戸による採光により明るく輝いています。ガラス戸は真南に向いています。連なったガラス戸は、180度だけではなく、角で折り返しており、さらに広がっています。この連窓の折り返しにより、パノラマのように庭の眺望が270度一望できます。ガラス戸を開ければ、そこは庭が広がります。庭の手前には、藤棚が広がります。愛日家レーモンド夫妻は藤棚の下で、夫婦で食事をするのが習わしでした。レーモンド夫妻は、親友赤星鉄馬氏のご家族のためにも、自分たちが好きな藤棚をしつらえました。庭には、手前に芝生が広範に広がります。その奥には、樹木群が広がりますが、手前に小さい木を、奥には高い木を配して、1枚の屏風画のように見せています。樹木にはアントニン・レーモンドならではの特徴があり、庭木に適するとされる木に限らず、雑木も取り交ぜています。すなわち、人が定めた良い悪いの基準ではなく、「自然なるもの」に最大の価値を置いたアントニン・レーモンドならではの庭木の選定でした。

建造物と自然なるものとの一体性を重視したことは、自らも建設に協力した旧帝国ホテルの解体をめぐるアントニン・レーモンドの発言「自然に囲まれていないなら、旧帝国ホテルを跡形もなく壊してしまつたらいい。」に表れています。

連なったガラス戸による大きな縦横の線の基調に、じゃばらが小さな縦横の線を加え、大広間全体をさながら幾何学文様のように見せています。大広間には、丸い柱が並んでいます。丸柱とすることで、生活空間に相応しい安らぎを感じさせます。

旧赤星邸はGHQに接收後、1956年にナミュール・ノートルダム修道女会の所有になり、大広間でミサが行われていました。その後、御御堂が完成します。その意味で、大広間は、シスターたちの祈りの込められた思い出の場所です。

## 8. 食堂

連なったガラス戸が大広間より一直線に続いています。庭に出るところに大きな大きな沓脱石（くつぬぎいし）が横たわっています。その先には大広間から続く藤棚が広がり、往年の赤星鉄馬の家族団らんの様子を偲ばせます。食堂には、ノエミ夫人の作り付けの家具が縦横の細かな線で、彩を加えています。

## 9. 厨房

赤星鉄馬、ナミュール・ノートルダム修道女会、いずれも大所帯でした。その食事をここで一手に作ります。複数のフライパンで同時に調理可能なガスコンロ、手入れをして大事に使っている機器、設計時のままのノエミ夫人の収納棚。

渡辺和子シスターの著作では、修練として、愛を込めて磨き上げるように教えられた様子が記されています。シスターたちが磨き上げた鉄製の調理台は今でも光が失せません。

## 10. 屋上に繋がる階段

中央階段を上っていくと、屋上に出ます。階段の1つずつに滑り止めの石がついています。アントニン・レーモンド設計として残されている中でも私邸は非常に珍しいものであり、その中でも旧赤星鉄馬邸は規模において有数です。私邸ならではの高齢化対策で、滑り止めが丁寧に付けられています。

2階から屋上に通じる階段では、テラゾーという技法が使われています。研き上げられた表面に、複数の石の断面が現れており、職人が1段ずつ手間暇かけて作った様子を伺い知ることができます。アントニン・レーモンドは、教会建築の嚆矢であるとともに、職人を鍛錬し、日本の名だたる建築家を育て上げたことでも知られています。

また、私邸のため、スペースの有効活用に最大限配慮しており、2階から屋上への階段下の空きスペースは給水給湯室です。

## 11. 屋上

屋上から庭を見ると、ここが五日市街道からたった1軒分中に入った武蔵野の中心地だということを一瞬にして忘れます。庭には、手前に低い樹木、奥に高い樹木を配置し、一對の屏風画のようです。家々の屋根も見えず、ただ目の前に武蔵野の緑が扇状に広がります。右手には、武蔵野市の遠景も見渡せません。

## 12. 応接室

食堂から続く連窓が広がります。連窓は折り返しにより隣の食堂を見ることができる仕掛けです。

四角い太い柱が立っています。この柱は、上層階の重量を支える建物の躯体を構成するとともに、収納の場所です。四角い柱を横から見ると、下に横幅いっぱいの幅広の引き出し、その上に縦に長く横に狭い取手つきの扉があります。この横に狭めた分だけ、四角い柱を真正面から見て、本棚などの棚が広がります。無駄なスペースがおよそ生じないように、収納を最大限重視した構成です。

ノエミ夫人の設計による一番左奥の引き出しは、半円形で、4段をすべて開くと、螺旋階段のように見えます。そして、中央の引き出しは最上段だけ、奥に行けばいくほど、縦に狭まっています。その分、天板下の木材が奥に張り出しています。奥に厚みを持たせた三角形形で、天板を支える構造になっており、木材だけで強度を保ち、下に撓むことを防ぐ工夫です。

ラジエーターが置かれています。本館地下に置かれたガスボイラーによるセントラルヒーティングにより、お御堂、離れ、本館がいずれもすぐ暖かくなります。燃費を抑えることもできますし、ラジエーターにすることで火傷をしないようにし、縦線を加える機能美を加わっています。

### 13. 会議室

天井を見て頂くと、この部屋が取り外し式の壁を取り外して出来ていることが分かります。左右対称に収納扉が置かれ、その上に、連窓が広がります。窓そばに丸柱、廊下側には収納と頑丈さを兼ね備えたお馴染みの特徴的な四角い太い柱が広がります。

### 14. 中庭

とかく暗くて、風が淀みがちになる本館北側に、中庭を配することにより、採光性と風通しを確保して、本館全体を明るく清々しい印象に仕上げています。

### 15. お蔵

上質な木製の収納が、天井の高さ一杯まで広がります。窓も、外から、鉄で覆うようになっていました。岩崎家別邸もお蔵は同じ作りです。このお蔵の上にも、お蔵の2階部分があります。

### 16. 物置（お蔵横の収納）

ノエミ夫人が設計した、木の特性を知り尽くした、日本人より日本人らしい木製の家具です。現ナミュール・ノートルダム修道女会が大事に使い、設計時の姿を今に伝えています。

### 17. 離れへ向かう通路

ノエミ夫人の設計した本棚等が並びます。四角い太い柱には、屋根を支える頑丈な躯体を構成するとともに、棚と引き出しを隙間なく配し収納にも役立っています。

## 第10. 離れ

離れは、宿泊できる部屋が複数あり、トイレ・風呂も複数置かれ、本館とは独立した生活空間として活用されていました。

### 1. 離れ入口の食堂台所兼応接室

離れは独立の生活スペースであり、本館厨房、御御堂2階台所とは別個の食堂台所・応接室です。

### 2. 離れの和室

向かって左手にはパピルスにかかれた最後の晩餐、向かって右手には聖母マリアの像とイエスの十字架が見渡せます。最愛の子イエスがキリストになるために、十字架に付けられた後の聖母マリアの悲しみ・苦しみは、ピエタに見られるように想像に余りあります。イエス・キリストは十字架の上で、自ら

を十字架に付けた者が罰されないように祈りました。二・二六事件で最愛の父を失い、人間不信、人間への恐怖感に眠れぬ夜を過ごしたシスター渡辺和子は、修道女会の伝統にのっとり、自らの心を聖母マリアの心に重ね合わせるにより、ここ東京修道院で平和の教育者に変容を遂げたのです。

### 3. 離れの風呂・トイレ

風呂は2箇所、トイレも複数あり、上智大学に通うシスターたちの共同生活の場になりました。

### 4. 離れの部屋

いずれの部屋も同様の構成です。机、ベッド、洋服ダンス、洗面台。特徴的なのは、入り口入ってすぐの上の部分に収納のための長くて深い押し入れが広がっていることです。長期滞在のための沢山の荷物も収納することができます。ラジエーターがあり、本館地下のガスボイラーでセントラルヒーティングされています。ラジエーターは火傷しないというメリットがあり、ガスを通すと早く温かくなり、燃費も良好です。また、洗面台の下には、給湯器がそれぞれ設置されており、寒い思いをする心配がないように設計されています。

## 第11. 庭

庭には33本の保存樹木があり、武蔵野市の緑と銀の札がかかっており、木の名前が書いてあります。1956年から、シスターたちの生活空間だったので、雑踏で踏み荒らされない自然がそのままに残されています。

庭の中央には、かつてしだれ柳があった跡が切り株として残っています。

イエス・キリスト像は渡辺和子初代院長のときに、アメリカのカーという富豪から送られたものであり、赤星鉄馬時代には噴水のあったところに、台座の上に置かれています。

庭のイエス・キリストの像の右手の3本指は、父と子と聖霊の三位一体を意味しています。左手の水平に伸ばされた手の平は、平和を残すという意味です。

これらの手の表情、意味は、井の頭恩賜公園の北村西望のアトリエに置かれた平和祈念像を彷彿とさせます。

吉祥寺という名前は、明暦3年（1657年）の大火により、吉祥寺の門前町が焼け出され、この地に移り住んだことに由来します。武蔵野の歴史とは、相互の違いを意識的に乗り越えた、平和への祈りの歴史です。

庭には、正面玄関横の木戸近くに、色とりどりのモザイクのタイルをはめ込んだ噴水跡（噴水の水の出口）があります。モザイクの輝きは当時のままです。

## 第12. 最後に

ご見学有難うございました。

ナミュール・ノートルダム修道女会に多大なご協力を賜り、本日の見学会が実現いたしました。

ナミュール・ノートルダム修道女会の本部移転にあたり、アントニン・レーモンド夫妻、赤星鉄馬、ナミュール・ノートルダム修道女会がこの旧赤星鉄馬邸で培い続けた平和への祈りを、私たちが、宗教や人種や生まれなど相互の違いを乗り越えて、この武蔵野の中心で、引き継いでいくことができますように祈ってやみません。



2019年11月24日 旧赤星邸の緑と建物を武蔵野市公共施設として保存活用を願う会会員